

平之荘神社の種子板碑

へいのそうじんじゃのしゅしいたび

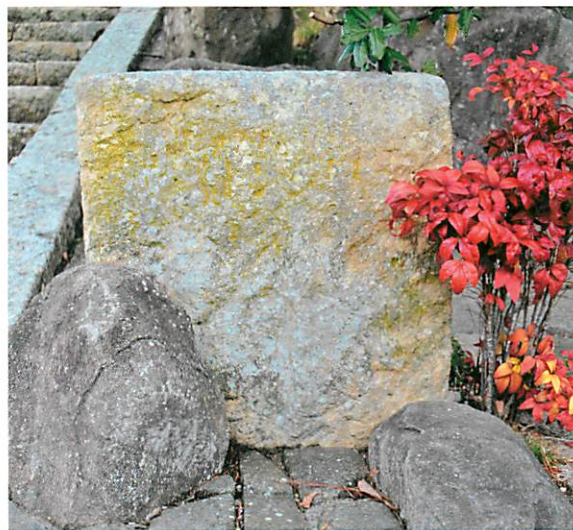


文化財愛護シンボルマーク

名称	平之荘神社の種子板碑	材質	石造、凝灰岩(竜山石)製
別称	弥陀三尊種子板碑及び釈迦三尊種子板碑、阿弥陀三尊種子板碑及び釈迦三尊種子板碑、弥陀三尊種子石棺板碑及び釈迦三尊種子石棺板碑、平之荘神社の弘安元年弥陀三尊種子板碑及び平之荘神社の釈迦三尊種子板碑	時代	鎌倉時代、弘安元年(1278)
数量	2基	所在地	加古川市平荘町山角478
法量	弥陀三尊種子板碑石棺の地上高68cm、幅62cm、厚14cm 釈迦三尊種子板碑石棺の地上高65cm、幅62cm、厚15cm	所有者	平之荘神社
		指定	加古川市指定文化財
		指定分類	建造物
		指定名称	弥陀三尊種子板碑及び釈迦三尊種子板碑
		指定年月日	平成3年(1991)10月1日



弥陀三尊種子板碑



釈迦三尊種子板碑



平之荘神社参道

平荘^{へいそう}小学校の東、報恩寺と並んで平之荘^{へいのそう}神社があります。その門に続く参道の石段の左右に、古墳時代の凝灰岩^{ぎょうかいがん}(竜山石^{たつやま})製の石棺材を使用して鎌倉時代に彫出した2基の石棺種子^{せつかんしゆし}板碑^{いたび}が立っています。大きさや材質から同一の組合せ式石棺の長側石^{くみあわ}を利用して作られたと見られています。

板碑とは、死者を供養するために建てられた石製の卒塔婆^{そとうぼ}を意味することが多いのですが、板状の石に仏像あるいは仏像を意味する種子を刻んだものなどを含めた石造品の呼称です。中世に多く製作されています。

向かって左側に立つ弥陀三尊種子^{みだ}板碑は、弘安元年(1278)の銘文があり、市内最古の石造資料です。上段に𑖀(キリーク^{あみだにょらい}/阿弥陀如来)、下段右側に𑖀

(サ／^{かんのおん ぼさつ}観音菩薩)、下段左側に^{せいしほさつ}𪛗(サク／勢至菩薩)の種子をそれぞれ薬研彫りしており、その下に銘文があります。今は地中に埋もれて読み取れません。

右側に立つ^{しゆが}釈迦三尊種子板碑は、上段に^{ぱく}𪛗(パク／釈迦如来)、下段右側に^{もんじゆ}𪛗(マン／文殊菩薩)、下段左側に^{ふげん}𪛗(アン／普賢菩薩)の種子が彫出されています。銘文は確認できませんが、弥陀三尊種子板碑と、同じ石棺材を使用し、種子の刻み方も同一の手になるものと考えられることから、同じ時期に制作されたものと考えられます。



平之荘神社の種子板碑(南西から)

いずれの板碑も、種子の形は比較的大きく、字面の幅が目立って広く、彫りが浅いなど、古調をよく示しています。

平之荘神社には、この板碑のほかにも本殿の東側に小型の家形石棺の蓋があります。

(拓本／『加古川市史 第7巻』から転載、文・写真／宮本)



[弥陀三尊種子板碑銘文]



弥陀三尊種子板碑拓本



釈迦三尊種子板碑拓本

●参考文献

- 『石棺仏』宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立好古館(2001年)
- 「加古川市平荘町の石造美術」藤原良夫(『鹿児』128～135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

彫刻、建造物、石仏、板碑、石棺仏、種子板碑、阿弥陀三尊、阿弥陀、観音、勢至、釈迦三尊、釈迦、文殊、普賢、組合せ式石棺の長側石、平之荘神社

●所在地／加古川市平荘町山角478

●交通／JR加古川駅発神姫バス「都台」行「山角」バス停から北東へ徒歩3分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ6 km

